

ノボル 鋼鉄 宮城の機械加工拠点稼働

今期経常益 6割増目指す

特殊鋼流通のノボル

鋼鉄（本社―東京都千代田区、三上隆彦社長）

は、10月に創立70周年を迎えるのを機に、経営基盤を強化する。宮城県に第2の機械加工拠点が完成し稼働を開始するとともに、熱処理センター（静岡市）

にもものづくり補助金を活用した電子顕微鏡を導入、品質管理を徹底する。大阪出張所を大阪営業所に格上げし、事務所も豊中市に移転。支店間の人事交流を活発化して社員の士気を高め、今期経常利益で前期比6割増を目指す。

ノボル鋼鉄は3月末

に宮城県名取市の愛島工業団地に「宮城テクニカルセンター」（宮城T.C.）を完成させ、5月16日に竣工式を行った。既存のテクニカルセンター（福島県南相馬市、T.C.）と並行して機械加工設備を拡充したもので、工具鋼の加工体制を強化した。

一次加工をT.C.で、二次加工を宮城T.C.で対応する。

宮城T.C.は1直操業だが、今後の受注次第で2直体制も検討する。「今期は一品一品の加工だけでなく、流れモノにも取り組みたい」（三上社長）としており、量産品の対応に注力する方針。

昨年、精密部品加工

を得意とする明星精工

を買収した子会社のノボルエンジニアリングは、前期（7カ月決算）売上高が2億1900万円、経常利益が4100万円だった。今期も順調に売上高を伸ばしており年商を3億6000万円に設定。全体需要が低調な中でも経常利益は収支トントンを見込む。

営業基盤強化を目的に進出した大阪営業所は2人から3人に営業人員を増やし、顧客サービスを強化する。三上社長は「全社的に熱処理、機械加工の勉強会を行うなど加工のレベルアップを図り、需要を深堀していく」と

創立70周年の節目に飛躍を誓う。

経常益45%減

15年6月期

ノボル鋼鉄の2015年6月期単独決算は、売上高が前年同期比1.4%増の61億7200万円、経常利益が45.1%減の9500万円、純利益が90.8%減の1600万円となった。期初計画に対し売上高、経常利益ともに未達だった。純利益は2億3000万円の特別利益に対し、

機械加工の新拠点である宮城テクニカルセンター（宮城県名取市）の機械設備、および熱処理センター（静岡市）の真空洗浄機などを全額償却し、建物の特別償却などで3億1000万円の特別損失を計上したため、大幅減益。

宮城テクニカルセンターに4人を新規採用したほか、全社的に合計19人を採用し、人件費も増えた。

今期は売上高63億8000万円、経常利益1億5000万円を目指す。（7面に人事異動）